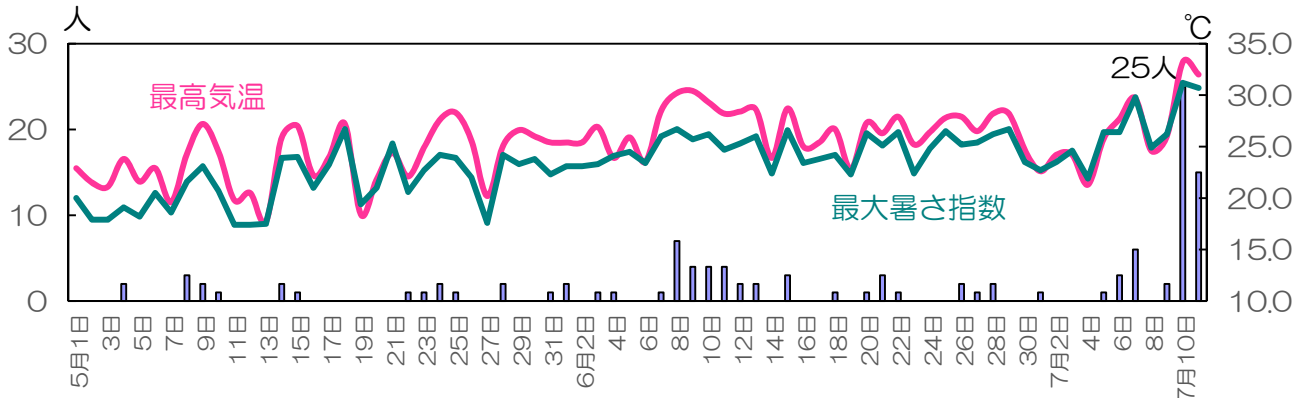


# 熱中症情報

## <搬送数>

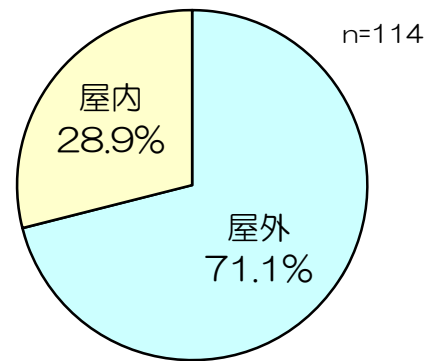
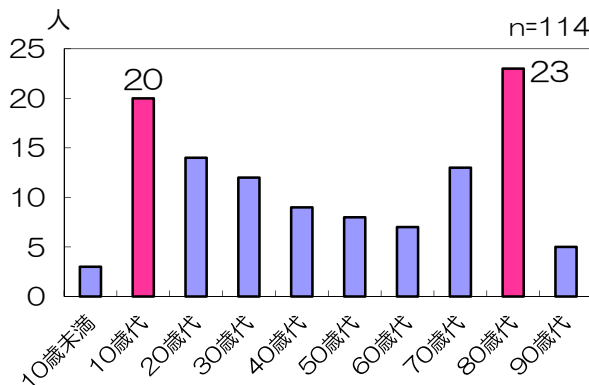
令和3年5月1日～7月11日までの搬送数（消防局データを使用）は、計114人（5月19人、6月42人、7月53人）でした。6月下旬から7月はじめにかけては、搬送数も少なめでしたが、7月10日は、最高気温33.2℃・暑さ指数31.2℃で、両方とも30℃を超え、日差しも強く、搬送数が25人と急増しました。

熱中症は、梅雨入り前の5月頃から発生し、暑い日が続いてくると多発する傾向があります。気温が高いなどの環境下で、体温調節の機能がうまく働かず、体内に熱がこもってしまうことで起こります。身体がまだ暑さに慣れていない梅雨の時期は、蒸し暑い日、風が弱い日、日差しが強い日等に増加する傾向がありますので、こまめに水分を取り、室温を適切に調節し、暑さから身を守りましょう。昨年引き続き、新型コロナウイルス感染拡大の防止とともに、熱中症予防にも心掛けましょう。



**暑さ指数とは？** 人間の熱バランスに影響の大きい①温度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「環境省熱中症予防情報サイト [暑さ指数\(WBGT\)とは？](#)」をご覧ください。

**<年齢別>** 80歳代が23人(20.2%)で最も多く、**<発生場所>** 屋外71.1%、屋内28.9%で、屋外での発生が多くなっています。次が10歳代で20人(17.5%)でした。



**<重症度>** 軽症69.3%、中等症28.1%、重症1.8%、重篤0.9%でした。高齢者(65歳以上)の中等症以上の割合が42.2%と、高くなっており、高齢になると重症化の傾向が伺えます。

